（再開　午後　１時２５分）

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

３番　山本隆樹　議員。

（「はい、議長。３番。」の声あり）

（３番　山本隆樹　議員　登壇）

１．リカレント教育の推進について

３番　山本隆樹　議員

それでは、通告に基づき３点質問いたします。

１つ目「リカレント教育の推進について」です。

村として、下高井農林高校の存続は大きなテーマとして取り上げられ、村、学校として魅力アップを発信しています。

しかし、全国で少子化により学校の統廃合が進んでおり、下高井農林高校でも入学者が減少しています。企業と協力して空いた教育施設、設備、人材をリカレント教育に活用できないか。その結果、農業と村と学校と相乗効果がもたらされ、農林高校の存続、また移住定住にも繋がると思う。いかがでしょうか。

下高井農林高校は114年の歴史、村としての大きな施設設備があり、生かしていくアイディア、対応が村づくりに繋がると思います。

議長（萩原由一）

関教育長。

（教育長「関　孝志」登壇）

教育長（関　孝志）

それでは、山本議員の下高井農林高校をリカレント教育に活用できないかということで、お答えしたいと思います。

リカレント教育の認識は学校教育から一旦離れた後も、転職や起業で新たな仕事を始めたり、子育てをしながら働いたり、また新たな仕事に挑戦したり、それぞれのタイミングで学び直しをする。仕事で求められる能力を磨き続けていくこと、要するに「社会人の学び直し」の制度として、リカレント教育が各大学の門戸を開いて行われているというふうに理解しています。

生涯学習とは異なり、仕事に生かすために学ぶということが目的ですから、キャリアアップであるとか、キャリアチャレンジというところが大きく違っているというふうに思っています。

私も調べましたら、全国的には高等専門学校、それから大学が運営するものが約９割。その他も様々でありますが、学習分野の講座等もいろいろあるようでした。

下高井農林高校は県立の学校ですので、県教育委員会が社会人の学び直しとしてリカレント教育を描いているかはわかりません。しかし、地域の産業であるとか、地域人材育成の必要性などを総合的に考えて県教育委員会としては、人材企業であるとか大学等と検討していく過程がすごく大事だというふうに考えます。

課題としては、県立高校のため、建物とか敷地は県の持ち物になっていますので、やはり県の教育委員会のビジョンのもとにあることが挙げられます。

人材育成を目的とするリカレント教育ですので、やはり厚生労働省であったり、経済産業省、そこに文部科学省と連携をしている制度です。今後、県の教育委員会と懇談の機会に地域からリカレント教育、そういう要望、導入推進の声がありますという声を伝えて、県の教育委員会の考えを伺っていきたい、そのように考えています。

議長（萩原由一）
　山本隆樹　議員。

再質問
３番　山本隆樹　議員
　これからの農業は、スマート農業とかドローン活用等、デジタルの中でキャリアアップ、キャリアチャレンジしていく時代です。県教育委員会がリカレント教育の場として考えなくちゃいけないっていうふうに言われましたけども、行政、村がアイディアを出してリカレント教育の場として、農林高校の施設の活用方法を県に申請していく、そういう熱意、姿勢が高校の存続と村づくりに繋がっていくというふうに確信します。
　農林高校の歴史を見ると、農業経営の改善を図るため、昔、蚕さん、養蚕教科っていうのを作り取り入れて、学校の教育活動だけではなく、地域活動まで広げて農林高校の存続の意義を広め、地域外からも学びの人を受け入れ、養蚕の活動に寄与しました。そういう歴史があります。
　また、地域との連携活動で成人大学講座が開講され、高等学校が持っている専門的教育機能や施設を活用して、一般の成人を対象にした講座も開かれています。その後も学校開放講座が開設されています。これ、学校開放講座の中でちゃんと農林高校で学んでみませんかというような一般人を呼んですね、ちゃんとした施設で一般人の人たちを教育、学びの場をちゃんと設けてるんですよね。そういう場をちゃんと農林高校は歴史を繋いでいます。
　農林高校の持つ専門的教育機能や施設の活用っていうのは、今言われたように、農林高校の中の地域連携推進連絡会っていうのがあるらしいんですが、そこが音頭をとって進めていくのがいいのか、その行政、教育委員会、まあ村ですね、ていう立場として進められないのかを伺いたい。

議長（萩原由一）
　関教育長。

（教育長「関　孝志」登壇）

教育長（関　孝志）
　再質問についてお答えします。
　どこが音頭をとってっていうふうに言われましたが、実は私、リカレント教育についてまだまだ学習が不足しております。やはり県立学校を対象にした事業ですので、そこのところをもう一度しっかりと私の方も学び直しをしていかなきゃいけないなと思っています。
　社会人のニーズに合った教育プログラムを提供するっていうことが一番大事なリカレント教育の内容ですので、長野県には信州大学が一つ、農業、それから食育、福祉の関係で連携事業をしていることが載っています。そういう実践をされてるところに再度連絡を取って、どういうプログラムでやられているのかということもお聞きしたいなと思っています。
　その中で先ほども言いましたが、県の教育委員会との懇談があればそこで声を出していきたいというふうに思います。実際の事例があればそこは強みですので、ぜひそんなふうに行っていきたいなと思っています。
　ただ、キャリア教育チャレンジというふうになってくると、受講料も高額となってくるということも示されておりましたので、そういうことも含めて、これから県教育委員会と連絡を取っていきたいなというふうに思っています。

議長（萩原由一）
　山本隆樹　議員。

再々質問

３番　山本隆樹　議員

金額のことはね、多分、かからない形で支援していくっていうふうに私は理解してます。

それで結局、学びの近隣市町村こういう形で下高井農林高校はやってるよ、デジタル社会に向けての農業の在り方、そういういろんな形で農林高校の施設として発信していくことが、その近隣市町村の住民とか、来ているいろんな人たちの移住者が本当に農林高校を頼りにしたり、これからの農業に対しての知識、学びがすごく理解された、そして農林高校の存立がすごく発信できると私は思ってます。そういう村づくり、熱意を村がしっかりと発信していく、そういう姿勢をやはり取っていく必要あると思います。

最後の質問ですが、お願いいたします。

議長（萩原由一）

日臺村長。

（村長「日臺正博」登壇）

村長（日臺正博）

北信地域の高校を考えると会というか協議会の方でも、そういう意見が出ております。

そんなことで、私も以前、県知事との懇談会の際にも、知事に直接要望しております。県内でも、高校の統廃合が進んでいるその中で、空いてくる高校の施設を有効に活用する手段じゃないかということも申し上げております。

それから、毎年県教委の方に要望に行っておりますが、この中でもリカレント教育の場として、ぜひ下高井農林高校の施設、人材も含めて使ってほしいという要望はずっとしてきております。

ただ、先ほどもお話がありましたとおり、リカレント教育となると、そこにつく人材とか施設については、人件費から含めて、県で運用するということになります。なかなかすぐには動かないというのが実情というふうに思います。

そんなことで、将来的にスマート農業等に進めるようにドローン等の整備も県の方に要望して、その辺の整理が進んできてるということであります。そういうものの施設の整備を進める中で、それらを活用する手段として、また、リカレント教育など県、そしてまた県教育委員会に要望していきたいというふうに考えております。

議長（萩原由一）

山本隆樹　議員。

２．調布市民との更なる交流を

３番　山本隆樹　議員

２番の「調布市民との更なる交流を」ということで質問させていただきます。

先ほど丸山議員の方からも伝えてありますけれども、10 月 31 日に議員研修で、全国モデルになっている道の駅で「川場田園プラザ」へ行ってきました。群馬県の川場村で人口 3,241 人、面積 85.25 ㎢、森林は 83％というふうに出ています。木島平も 4,231 人、99.32 ㎢、山林も 79.51 ㎢とほとんど似た、人口はかえって木島平の方があったり、なんか見てるとかえって木島平の方が優秀じゃないかなっていうぐらいなふうに感じました。

ところが、やはり里山や田園風景を生かした田園理想郷を目指して地域づくりが進められていました。その中のキーワードの一つとして、都市交流事業が取り上げられていました。世田谷区民の健康村として、子供里山自然学校、農業塾、里山塾等、交流が盛んで「ただいま」と言いたくなる懐かし

い空気が残っているのどかな田舎、田園理想郷をつくる村づくりを感じました。
　木島平村としても、調布市とは、都市と農村交流の先駆けとして、住民同士の活発な交流など姉妹都市交流の優等生として知られています。
　コロナ禍ではありますが、時代は故郷回帰、農ある暮らし、スキー場を活用した調布市民の健康村へと更なる取組が村づくりに拍車がかかると思いました。現状と今後の抱負を伺いたい。

議長（萩原由一）
　日臺村長。

（村長「日臺正博」登壇）

村長（日臺正博）
　はい、それでは姉妹都市の調布市とのご質問であります。
　村民の皆様にご参加をいただきまして進めてまいりました調布市との交流は、今年で 37 年を経過するということで、今ではバスツアーやスキーなどで、多くの方が村へお越しをいただいております。また、村からも花火大会や各種イベントへ参加をしております。
　ご指摘のとおり、世代を問わず多くの調布の市民の皆さんが故郷と位置づけていただけるよう、今後の村民の皆様が参加する交流を進めてまいります。
　現状について、担当課長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）
　丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）
　それでは村長の答弁に補足して、調布市民との交流について状況等お答えしたいと思います。
　調布市民を対象にしたバスツアーや市内の中学生のスキー教室等で、多くの市民の方が村へ訪れていただいております。
　村でも調布市花火大会に合わせたバスツアーや、東京オリンピック・パラリンピックの関係では、調布市内で開催するプレ大会の観戦ツアー等も実施してきております。
　コロナ禍により、こういった様々な事業が規模縮小や中止となっておりますが、徐々に事業が再開されてきています。
　現在の交流事業は、年３回のバスツアー、調布市内の中学校のスキー教室、また新たな事業として中学生の平和学習の相互交流が進められています。
　また、都市農山村の共生を図り、交流の拡大を目的に設立された「調布木島平交流クラブ」では、春の田植え、秋の稲刈り、晩秋のリンゴ狩りと年間３回のツアーを実施いただき、クラブ員の市民の方が村へ訪れています。その他、市内在住・在勤の方が村で宿泊する際の宿泊助成制度、調布木島平交流クラブ員向けの宿泊助成制度も整備してございます。
　今後については、これまでの事業の復活と継続、村の自然や産業施設を活用した交流事業を更に深めるよう検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

議長（萩原由一）
　山本隆樹　議員。

再質問
３番　山本隆樹　議員

川場村のホームページで、川場村の村づくりっていうことで出てるんですけど、すごくコンセプトが明確なんですよね。例えばキーワードの一つで、都市交流事業としての取組の中に、子供里山自然学校ってあるんですけども、その注釈でも、自然に親しむ、自然の仕組みを理解、森林作業の必要性を学ぶっていうような形で一つ一つ背景・目的・事業が明確に示され、受入れ側、相手側の認識が明確になっています。

村としても、調布市との交流事業として一つ一つ明確にしていくことが、私必要じゃないかなと思います。37年間の交流の中で、マンネリ化せず、大切な交流事業の目的・事業、そういうのが認識され、更なるそこにアイディアが結びつき、相互に良好な関係が継続をしていくのではないか。

本当に一つ一つ何て言うんですか、当たり前のことなんですけど、やっているその事業一つ一つのことが丁寧に目的と、向こうの親はこういう形で臨みたい、こっちも受入れ側としてはこういうものを教育したいっていうか、そういうものを届けたいっていうような熱意、そういうものが相互に感じられて、何かただダラダラやっていくわけじゃなくて、一つ一つ何か明確な目的と事業っていう形で取り上げられていました。これいいことだなと思って、スキーなんかもこれからお客さん呼んでくると思うんですけど、やはりコロナっていう形でね、ちょっと躊躇されるようなことも考えられるかもしれませんけど、健康とか、それよりも逆に自然との触れ合い、雪との触れ合い、スキーですと重心をバランス良く保つ体の対応とか、何か上手に、うまく伝えることが逆に都会にいるより木島平に来た方が健康になるんじゃない。かえって抵抗力がつくんじゃねえかっていうような、逆に躊躇するんじゃなくて、健康村に行って来ようみたいなね、そういう発信力があればいいなっていうふうに感じました。それについて、いかがでしょうか。

もう一つ、都市交流事業として、調布市の健康村として位置づける取組として、今年地域おこし協力隊の３人は、トレイルランニングで成績を残しているアスリートたちなんですよね。ほんで議員との懇談会の中で、スキーとかスキー以外でも、冬の凍み渡りしたり、スノーシュー、クロカンで散歩するアクティビティを取り入れた企画を実現したいというようなふうに述べてました。本当に調布市との健康村っていう一つの大きなタイトルの目標の中で、本当に地域おこし協力隊の協力がすごく意味があるんじゃないかなとも思ってます。

その２点、お聞きしたいと思います。

議長（萩原由一）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、再質問にお答えしたいと思います。

まず１点目の、いわゆる健康等、いわゆる明確な目的なりイメージをっていう形の交流事業という内容かと考えています。

現在、村及び調布市の方で交流事業を進めておる内容でございますが、それぞれが主催者団体がおったり、関係者がいるという中で、それぞれ関係団体がそれぞれの目的・目標を持ちながら交流事業を進めているという形でございます。

村関係では、調布市木島平交流クラブ等の事務局を持っておりますので、調布市の役員さんの意向を聞きながら､そういったものが実現できるような交流をサポートしているという状況でございます。

都市と交流の関係では、そういった事業が現在ほとんどですので、それぞれの団体が持っている目的を達成できるよう村としても事業を進めていきたいというふうに思いますし、村の方も交流で調布市を訪れてる方についても、それぞれ市民と村民の交流が深まるよう事業を進めていきたいというふうに考えております。

また、そのうえで必要なイメージ、それから目標・目的等を表したうえで交流事業を進めていくと

いうことも重要かと思いますので、今後検討してまいりたいというふうに思います。
　また、調布市との交流の中で協力隊の方の参加をいただいたもののご提案でございます。
　これについては、また都市交流がそれで実施できるかどうかを含めまして、またいろんなご意見を聞きながら可能な事業については、実施していきたいというふうに考えます。

議長（萩原由一）
　山本隆樹　議員。

３．観光施設の民営化について

３番　山本隆樹　議員
　では３番目の「観光施設の民営化について」です。
　各議員からも観光施設の民営化について質問があり、答弁がありました。私の通告でも、進捗状況の質問があるんですが、それについては答弁もあり、理解いたしました。
　私が最後の質問者となります。そこで、観光施設の民営化について総まとめとして、観光施設の民営化後の木島平村の観光の姿、ビジョンをどう描かれているのかお聞きしたい。
　以上です。

議長（萩原由一）
　日臺村長。

（村長「日臺正博」登壇）

村長（日臺正博）
　ちょっと若干質問の主旨が変わっておりますが、進捗状況につきましては、これまで各議員のご質問にお答えしたとおりであります。また、今後の村の観光の姿についても、これまでの議会の一般質問でも民営化後の観光をどのように考えているのか、観光行政の今後についてといったご質問でもお答えしておりますが、今、改めてお答えさせていただきます。
　今回の民営化に伴い、村の観光の姿や考え方に大きく変わるということはないというふうに思います。今まで村で観光施設を所有し、管理運営を第三セクターが行ってきたわけでありますが、必要な事業転換や施設改修ができにくかったということは確かであります。今後、逆に民間の資本と専門性、ニーズに素早く対応できる魅力的な観光にし、施設ができることを期待しております。
　また、来訪者が増えることで、新たな事業の創出や雇用も考えられます。
　そういった意味からも、地域の活性化のために官民が協力していく必要があり、行政として今まで掛けてきた施設管理の負担が軽減されることから、これまでできなかったインフラ整備など、観光にプラスになる政策が取れることも考えられます。
　観光振興局を始め、各種団体が連携し、新たな事業者と共に木島平村に訪れてもらえる機会を作っていくことで、多様な事業展開への支援や情報発信ができるものというふうに考えております。

議長（萩原由一）
　以上で、山本隆樹　議員の質問を終わります。

（終了　午後　１時５３分）

議長（萩原由一）

以上で、本日の日程は終了しました。
本日はこれで散会します。
ご苦労様でした。

（散会　午後　１時５３分）